

新規開講科目CT133:
化学物質総合経営概論

紹介者: 星川欣孝

連携機関:

化学生物総合管理学会

2010年度知の市場年次大会

1. 教育活動の趣旨等

化学生物総合管理学会の主な活動は、

1. 学会誌『化学生物総合管理』の年2回以上の発行
2. 学術総会と春季討論集会の開催
3. 会員の自由な発意による研究会の設置
4. 講師招聘による講演会の開催

であり、これまでの活動の要点は学会ウェブサイトに掲載されている。<http://www.cbims.net/>

そして「知の市場」の公開講座に関する活動については、その前身である「化学・生物総合管理の再教育講座」が2004年度に開設された時点からその趣旨に賛同して連携機関として参画している。

2. 新規開講科目の概要

科目名	化学物質総合経営概論
副題	化学物質総合管理を目指す国際協調活動に学ぶ －基本的枠組みと付加価値を生み出す次の一手－
概要	<p>化学物質総合管理の概念・体系は1970年代からOECD（経済協力開発機構）が加盟国の支援を得て確立した。それはその後1992年のUNCED（国連環境開発会議）で合意されたアジェンダ21第19章を積極的に遂行する基礎となり、また各国が化学物質管理能力を抜本的に強化する実効的かつ標準的な法律制度などを構築する基盤となっている。<u>しかし日本は未だ化学物質総合管理に対応した法制への転換を果たしていない。</u></p> <p>この科目では、</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 化学物質総合管理に係るOECD、UNCEDなどの国際協調活動や米国、EUなどの先進的な取組みを紹介しつつ、化学物質総合管理の基本的な概念や枠組みを概説した後、(2) 日本の企業や行政機関などの各セクターの化学物質総合管理能力を評価し、その課題について論考する。(3) 化学物質総合管理を付加価値を生み出す化学物質総合経営に進化させていくための方策について事例研究を通して論じる。

3. 新規開講科目の構成と講義名

構成	講義名
はじめに	化学物質管理と付加価値
1.国際協調活動の進展	(1) UNCED開催以前の取組みと化学物質総合管理の確立
	(2) 化学産業界の取組みと化学物質総合管理への自主管理の導入
	(3) UNCED開催以後の取組みと化学物質総合管理の展開
	(4) SAICMと世界行動計画
	(5) UNITARの支援活動
2.主要先進国の概況	(1) 米国・カナダの概況
	(2) EU・オーストラリアの概況
3.化学物質総合管理による国際競争力の強化	事例研究－コスト要因を付加価値要因に転化－

* SAICM: 国際化学物質管理の戦略的取組 UNITAR: 国連研修・研究機関

3. 新規開講科目の構成と講義名(つづき)

構成	講義名
4.化学物質総合管理 の基本構造	(1) 基本的管理制度の概要
	(2) 化学物質総合管理法試案の概要
5.日本の概況と課題	(1) 化学物質審査規制法の制定以後の概況
	(2) 国際合意との乖離－ハザード分類・表示の世界調和システム (GHS) などを例に－
	(3) 化学物質総合管理活動の評価指標と評価結果
まとめ	化学物質総合経営